

No	項目	対象	設問	肯定的回答 % ()は否定的回答	回答不能	令和2年度の考察	令和3年度の具体的な取組・方向性	評価委員会の意見
1	学校生活全般	親	子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	H30 R1 R2 92.8→88.5→90.3 (2.3→2.8)	6人 1.1%	肯定的な回答の割合は若干上向きに変化した。否定的な回答の割合も若干増えた。学級経営、情報発信の課題分析とさらなる充実が必要である。	・学級経営の向上に関する情報を収集し配布・回覧する。研修参加を奨励する。 ・学校便りを工夫し前月の児童の学習活動や生活の様子等の情報を、紙ベースとホームページで積極的に発信する。	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いと思われる。
2	一貫教育 /異校種の協働	親	連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。	68.5→63.7→51.3 (7.1→9.2)	80人 14.1%	今年度は、肯定的な割合が10%以上も減り、否定的な割合が増えた。コロナ禍で中瀬中との交流が、6年生が授業見学をしたのみで、あとは、全て中止となったのが要因と考えられる。	・例年通り交流の実施(あいさつ運動、中学校見学・体験、出前授業、吹奏楽部演奏会、図書委員会による読み聞かせなど) ・教員の3校(中瀬中、桃五小、八成小)合同研修会の実施。	
3	学校評価	親	学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	80.6→74.6→71.1 (4.5→4.6)	43人 7.6%	肯定的な回答の割合が減少の変化があった。今年度増やしたHPでの情報発信している状況を、各家庭にたくさんの場で伝えていく。	・教育評価の公開(説明会、ホームページ) ・各行事等でのアンケート実施と結果の発信(学校だよりやホームページで)。	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いが、学校ホームページの発信内容等に工夫が必要である。
4	学級経営	親	学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	86.8→84.3→88.5 (2.9→3.2)	7人 1.2%	今年度は、コロナ禍で例年との比較は、難しいが、保護者の肯定的な回答が4%上昇し約9割に迫っている。半面、児童の否定的な回答が約5%上昇している。保護者への要因としては、校内情報の発信が比較的良好であったのではないかと考えられる。また、児童については、子供同士の関わり合いの活動が難しい中、8割以上の児童が肯定的に捉えていることからむしろ良い結果ではないかと考えられる。	・児童が学校、学年、学級の課題を共有し、学級会等での話し合いの充実に努める。 ・行事や児童会活動などで児童相互が繋がりを感ぜられるような活動を計画していく。(制約がある中では、ICTを活用した行事や集会の実施)	○児童の評価については、否定率が上がったことについて、学校・先生はさらなる努力の必要があるのではないかと? ○評価に安心することなく、学級経営に更なる改善の努力が必要である。
		子	先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	84.0→87.9→82.3 (1.6→6.4)	8人 3.4%			
5	個に応じた指導	子	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	49.5→51.0→48.1 (13.1→19.3)	23人 9.9%	肯定的な回答の割合は減少し、否定的な回答の割合が増えた。授業中、一人一人とやりとりをしたり、学びに寄り添ったりする時間が十分に確保できなかったことの表れだと考える。	・各単元の中で、児童の様子をきめ細かく見取り、一人一人とやり取りをしながら学びを支える指導を工夫する。 ・全校で、放課後や土曜日の4時間目などに個別の課題に取り組む時間を確保する。	○次年度の補習時間について:個別でなく全体の取り組みがわかるように表現を工夫したほうが良い。 ○風邪等で欠席した時間の補償を考える必要がある。
6	学習の成果	親	子どもは、学校の授業を通して、分かることやできることが増えている。	92.0→88.5→91.4 (0.8→0.7)	4人 0.7%	保護者、児童共に肯定的な回答の割合が微増。コロナ禍で制約もある中、学習の成果を実感することができていることは、喜ばしい事である。しかし、否定的な回答をした児童の割合も増えていることから、学力が二極化している傾向にあるとも読み取れる。	・令和2年度の取組や方向性を継続しつつ、「分からない・できない」と感じている児童に寄り添った指導ができるよう、授業の形態を工夫する。 ・児童同士の教え合いの時間を設けたり、進度や理解度に応じた課題など個に応じた工夫を行ったりしていく。	○学校は良く受け止めている。令和3年度の方向性と取組も具体的で良い。
		子	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	85.0→82.3→83.7 (3.8→7.7)	6人 2.6%			
7	学習評価	親	学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	85.0→84.9→79.5 (2.3→1.6)	20人 3.5%	保護者の肯定的な回答の割合が減少した。休校の影響で1学期の学習評価が十分にできなかったことや、教師が児童の良い点や課題を十分に捉える前に個人面談期間になってしまったこと、保護者会の時間を短縮せざるをえなかったことが要因と考える。児童の肯定的な回答の割合は微減だが、否定的な回答の割合が増えた。個への対応を充実させていく必要があることがうかがえる。	・学期末の保護者会で評価について丁寧に説明していく。併せて、どのようなねらいでどのような学習活動を行ったかななどの情報も発信していく。 ・作品やノートへのコメントや、授業中の児童への細やかな声掛けをより一層心掛けていく。	
		子	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	76.5→78.6→77.2 (2.2→7.7)	6人 2.6%			
8	ICT機器の活用	親	学校は、ICT機器(電子黒板やデジタル教科書等)を活用した授業を行っている。	83.8→86.7→75.8 (3.4→4.6)	55人 9.7%	児童の肯定的な意見に変化はあまり見られなかったが、保護者の肯定的な意見が大幅に減少した。これは年に2回行っているICT授業公開の開催ができなかったことが大きな要因と考える。ICT機器を活用した授業の情報発信をする必要がある。	・来年度からタブレットPCが児童一人一台貸与されることで、ICT機器を活用した学習活動のさらなる充実を図っていく。 ・ICT機器の効果的な活用方法について研修を行っていく。 ・ICT機器を活用した授業の情報を公開等で発信していく。(学期に1回ICT公開を行う)	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いと思われる。
		子	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	94.5→96.3→95.3 (0.6→0.9)	5人 2.1%			
9	系統的・連続的指導	子	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	79.9→80.8→70.3 (3.3→7.3)	12人 5.2%	大幅に減少した。既習事項とのつながりや、今後の学習との関連を意識させる声掛けが不足していたことの表れであり、改善していく必要がある。	・学習内容の系統や教科間の関連を確認し、意識して指導にあたりとともに、児童にも伝えていく。 ・デジタルコンテンツを活用し、既習事項を振り返ってから単元の学習に入る等工夫する。	

10	道徳教育	親	子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	90.1→86.7→89.1 (2.4→1.8)	7人 1.2%	今年度は、限られた道徳公開であり、よりよく生きる力を育む道徳的取り組みがどのようなものか、伝わりづらかったと考えられる。 話し合い活動が十分にできていないことが、みんなで話し合っているという実感に繋がっていないと考えられる。	・地区公開や学校便り等で、道徳の取り組みを伝え、家庭、地域、学校が一体となって道徳教育を行えるよう推進していく。 ・児童が主体的に、自分事として考え、自己の生き方について考えられる授業を行う。	
		子	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たちと共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	72.6→73.1→68.8 (5.8→9.0)	10人 4.2%			
11	体育・健康教育	親	子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	92.5→88.5→90.5 (1.4→2.5)	6人 1.1%	今年度は対策を講じながら休み時間・授業・行事で様々な運動を行ってきた。なかなか体力を向上するような取組を全員で行うことができず、児童の意欲を向上させることが難しかったと感じる。今年度の反省をさらに来年度につなげ、対策を講じつつ運動の時間を確保できるようにしていく。	・体育的取組の設定をそれぞれの学期に設定し、運動への意欲の向上を図る。 ・体育授業での児童の運動量確保にも留意した指導を行う。また、一つ一つの練習がどのような動きにつながるかを具体的に教えていく。 ・引き続き、オリンピック・パラリンピックの開催年度として、掲示や体育委員会の取組で機運を高めていく。 ・保健体育や学期の計測時に、健康について学ぶ機会を設定し、自分の健康を振り返ることができるようにする。また、その手立ての充実を図る。	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いと思われる。
		子	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	77.4→77.4→68.8 (2.2→6.4)	18人 7.7%			
12	特別支援教育	親	学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	69.3→65.6→57.8 (7.8→6.0)	68人 12.0%	肯定的な回答の割合は下向きに変化している。否定的な回答の割合は若干減った。発達に関する課題、障害理解を深める情報発信の課題分析とさらなる充実が必要である。	・保護者への理解啓発として「ほほ笑み便り」の発行を定期的に行う。 ・個人面談で学校生活支援シートを活用し、保護者と児童に関する情報を共有する。 ・はちなり教室の施設公開をして特別支援教室の理解を深められるようにする。	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いと思われる。 ○ふれあいの家との交流、重度心身障害児担当の話などを聞く機会があると良い。
13	地域との協働	親	学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	72.8→82.5→79.7 (3.8→3.4)	15人 2.6%	肯定的な回答が、児童・保護者ともに減少の傾向があった。参観や餅つき大会が中止になったことが一つの要因であると考えられる。来年度は今年度と同様に、できることを検討して実施していく。	・新型コロナウイルス感染症に対する各行事の実施の仕方を検討し、保護者・地域の方が教育活動に直接的に関わるようにする。 ・外部講師による授業の体験活動を児童へ価値付けていく。講師の紹介、振り返りを必ず行い、児童にその存在の大切さを十分に理解させる。	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いと思われる。
		子	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	61.3→60.5→56.0 (9.1→6.0)	36人 15.5%			
14	いじめ防止	親	学校は、困ったり、悩んだりしたとき、相談にのったり話を聞いてくれたりする。	82.0→56.4→51.1 (9.9→6.3)	106人 18.7%	保護者、児童の肯定率が下がった。保護者の否定率は減少したが児童の否定率は増加した。今年度は、コロナの対応もあり学校公開なども減り保護者、児童の思いを十分に受け止めきれない状況があるものと受け止め、真摯に対応していくことが大切である。	・学校いじめ防止基本方針に基づき、早期発見に努め、学校いじめ対策委員会で組織的に対応をしていく。 ・毎日の生活指導及び道徳の授業を通して、児童がいじめを深く考える授業を行う。 ・年3回のいじめアンケート行い、児童一人一人に寄り添って話を聞くようにし、相談しやすい環境づくりをする。	○保護者の回答不能率が多いことから、学校の相談体制が見えにくいのではないかと。 ○スクールカウンセラーの活用とその発信を工夫したほうが良い。
		子	学校は、困ったり、悩んだりしたとき、相談にのったり話を聞いたりしてくれる。	60.3→80.3→65.7 (4.2→15.0)	19人 8.2%			
15	(独自)特色ある学校の取組	親	学校は、宇宙の学校の実施、メダカやスズムシの配布、理科自然園の設置などとして、理科や自然に対する興味・関心を高めるよう努めている。	* →84.3→88.3 (1.6→1.8)	20人 3.5%	今年度は、これらの取組を総括する「特色ある学校づくり委員会」が発足され、学校長の経営方針に基づく8つの「アイ」を目指し、目的をもって取り組めたことが、児童への認知や実感につながったのではないかと。中でも「宇宙の学校」は例年と違い学年で依頼し、2～4年生の全員が関わったことや、6年生のJAXAによる出張授業も大きな効果を生んだと考える。	・理科や自然に関する内容を中心に、児童が体験や経験を、「ヒト・コト・モノ」へとつなげ、広げたり伸ばしたりしていけるよう、学年の計画に位置付け特色ある取り組みを行う。 ・今年度の取組の引継ぎを次年度に生かし、児童の実態に応じ目的をもって活動が行えるよう学年ごとに内容の充実を図る。	○学校の令和2年度の考察および令和3年度の具体的な取組・方向性については、概ね良いと思われる。
		子	先生たちは、宇宙の学校を行ったり、メダカやスズムシを配ったり、ハスの植え付けをしたりして、理科や自然に対する興味や関心を高めてくれている。	* →72.1→79.0 (5.9→6.4)	11人 4.7%			
16	(独自)学校経営計画の推進	親	教職員は、①心を磨き耕す、②ルールを尊重し守る、③人との関係を大切にするという3つの学校経営基本方針に基づいた教師像の実現に向けて努力している。	* →64.3→67.3 (4.9→3.2)	77人 13.6%	今年度は肯定率がわずかに上がった。これからは行事や活動に3つの学校経営方針や「アイにつながる学校づくり」に基づいて計画・実施をしていく。	・職員会議等での校長講話の充実を図る。 ・様々な啓発情報の回覧を行う。 ・行事委員会での考え方がどのように学校経営方針や「アイでつながる学校づくり」と関係しているかを明確に計画・実施する。	